



ASIS インターナショナル日本支部
広報担当理事 長瀬 泰郎



ASIS インターナショナル日本支部便り

1月度月次セミナー 「米国における監視システム動向」

月次セミナー3年目の2009年1月は、デロイト トーマツ コンサルティング株式会社のシニアコンサルタント、谷本 護氏を講師に迎えました。氏は大手メーカーを経てデロイト トーマツ コンサルティング株式会社に入社、Security 業界、ハイテク/IT 業界、サービス業界を中心にコーポレートファイナンス、M&A 戦略、新事業立上、タックスプランニングをテーマとしたプロジェクトを数多く手掛けてきました。

以下は、氏の語る米国の監視システム市場と日本市場の特徴です。



■ 現在生じている業界の変化

監視システム市場は、狭義の「監視システム」を対象にするものと「観視システム」を対象にするものとに分けることができます。「監視システム」市場は、警備サービスや子供登下校見守りサービスなど、第三者が人物・物体の行動を見張る市場で、モニタリングや何かあった時のために記録するという市場も含まれます。一方「観視システム」市場は、先進的な小売業でネットワークカメラに



よって顧客動線を計測し、POS データと連動させて販促・広告効果測定を行うなど、捉えた映像を情報として発信、活用する市場のことです。

一方、セキュリティ目的の「監視システム」市場では、世界的に見てアナログ系システムの市場規模が依然大きい一方で、デジタル系システムの成長が著しく、2011 年には全市場の 35%に達すると予想されています。

Surveillance System Assumption : 監視システムは「監視システム」「観視システム」に分類できるが、本発表では「監視システム」を検討対象と致します

監視システムの定義 Definition

分類	定義・内容	サービス例
監視システム	第三者が人物・物体の行動を見張る市場。モニタリングや何かあった時のために記録するという市場も含む	<ul style="list-style-type: none"> 警備サービス 子供登下校見守りサービス等
観視システム	捉えた映像を情報として発信、活用する市場	<ul style="list-style-type: none"> 顧客動線を計測し、POS データと連動させて販促・広告効果測定を行う 等 (先進的な小売業で実施)

7 本誌には付録システムあり

© 2009 Deloitte Tohmatsu Consulting Co., Ltd. All rights reserved.

映像監視システムの市場分類

このようなデジタル方式への移行に伴い、次の変化が見られます。

- 1) 検出に基づく事後対処から、検出による事前予防を主眼とする「プロアクティブ化」
- 2) 映像情報の獲得・分析から、アラームやアクセスコントロールとの「統合化」
- 3) 通信のモビリティ・IP 化を背景としたシステム構築の「効率化」

Surveillance System Situation : デジタル方式の移行に伴い、「プロアクティブ」「統合化」「効率化」が進展してきた

デジタル方式への移行に伴う課題
Issues in Digital Systems

- 映像情報・データの保護強化 Security**
 - 映像データの収集・伝送・蓄積・再生・複製の容易化
 - データ改竄や不正アクセスのリスク上昇
- 様々なチャネルの帯域幅とエラー耐性への適応 Robustness**
 - ネットワークのQoS制御に対応
- インテリジェント化への応用 Intelligence**
 - アラーム発生や、状況判断を支援する、画像・映像の認識や検出への適用
 - メタデータの抽出への応用
- 既存システムとの連携や蓄積データの活用 Data Utilization**
 - これまで構築したシステムや蓄積した画像・映像・情報・データを有効に活用

現在生じている業界の変化
Changes in the Market

- 「リアクティブ」から「プロアクティブ」へ From Reactive to Proactive**
 - 検出に基づく事後対処から、検出による事前予防へ
- セキュリティアシステムの統合化 Integration**
 - 映像情報の獲得・分析からアラームやアクセスコントロールとの連携へ
- セキュリティアシステム構築の効率化 Efficient Implementation**
 - 通信のモビリティ・IP化(ブロードバンド化)を背景とした、システム構築の効率化

デジタル方式への移行に伴う業界変化

米国の監視システム市場では、様々な導入パターンがありますが、セキュリティコンサルタントがエンドユーザーの立場に立ってリスク評価に基づく対策案をまとめた上で、これに基づいて Sler が必要なシステム仕様を纏めることが多いといえます。ここではセキュリティコンサルタントや Sler がスペック決定で重要な鍵を握るのですが、代理店 (Distributor) の絡み方も重要なポイントとなることが多いといえます。

一方、ブランド力の強いハードウェアメーカーが中心となってスペック



決定することが多い日本では、「何となく安心」という感覚から機器・サービスを導入することが多く、セキュリティリスクを緻密に分析するセキュリティコンサルタントはまだほとんど存在しません。しかし今後はセキュリティ基準の整備や資格制度の導入などでこの辺りの意識が高まれば、日本でも多様なサービスモデルが出てくると思われます。また、ネットワークインフラが発達している日本では、Nler が活躍する場が増え、その影響が大きくなるでしょう。

■ 再編トレンド

M&A Practice: 監視システムのM&A事例で多いパターンは、プロダクトラインアップ補充型が圧倒的・・・

米国監視システムの主要M&A事例 Cases in the US

M&A事例	リリース時期
Tyco Fire & Security Acquires Retail Data Analytics	2007 Feb.
Siemens building technologies acquires Novotec Engineering	2007 March
ADT Buys American Systems Integrator FirstService Security	2007 May
Diebold Security buys Integrator Actcom	2007 June
Honeywell Completes Acquisition of Burtel Systems	2007 Jul
Vilpage to Acquire Iridian Technologies	2007 Aug.
Securitas Systems Acquires PEI Systems	2007 Dec.
Tyco International Acquires Trident Tek	2008 Dec.
Bosch to Buy Extreme CCTV	2008 Jan
Honeywell Completes Acquisition of Hand Held Products	2008 Feb.
Halifax group buys north american video.	2008 March
Asa aplay to acquire SimonsVoss technologies.	2008 March
GE security acquires portion of Covi technologies Assets.	2008 March

広範囲なサービスを提供できるベンダーが集約化されつつある

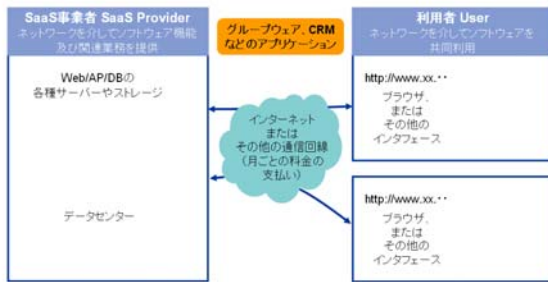
米国監視システムの主要 M&A 事例

米国では、セキュリティ業界の再編がかなりのテンポで進んでおり、2007年から1年余りの間に13ものM&Aが発表されています。プロダクトラインアップ補充型が圧倒的に多く、広範囲なサービスを提供できるベンダーが集約化されつつあります。つまり、自社のポジションを否応なく再構築する必要性に迫られる時代に入ったといえます。

■ サービス化の進展

単なる機器ビジネスだけでなく、サービス化の進展も見られます。たとえば、ネットワーク経由でアプリケーションを利用する SaaS の利用環境が整いつつあります。監視サービスを受けるユーザー側にとっては、需要に合わせてシステムの利用規模を変更できるフレキシビリティを持たせたり、環境変化に合わせてサービスの取捨選択が行えるメリットがあります。

SaaS: ネットワーク経由でアプリケーションを利用するSaaSの利用環境が整いつつあり...



18 東京における映像システム教育

© 2009 Ouhwa Yamahiro Consulting Co., Ltd. All rights reserved.

SaaS 利用環境の整備

映像監視システム SaaS はまだそれほど進んでおらず、米国でも数社しか事業展開していませんが、サービス事業としてどのように発展させていくかのポイントが確立されれば今後発展していく可能性があります。

ASIS インターナショナル日本支部の月次セミナーへのお誘い

ASIS インターナショナル日本支部は、月次セミナー(「セキュリティミーティング」)を開いています。産業セキュリティに興味がある方ならどなたでも参加できます。お申し込みはホームページから！

■ 開催日

毎月第三火曜日 午後 6 時半より

■ 場所

日本支部のホームページでご確認ください。

www.asis-japan.org

■ 参加費

2,000 円 (ASIS 会員・非会員同一料金)

また、1 月からは、世界的に有名なセキュリティ専門家資格、CPP、PSP の受験を目指す人々が集まって開くスタディグループが発足しました。

一定以上の受験希望者が集まれば、日本国内での受験が可能になります。

興味のある方は、日本支部ホームページをご覧ください。

このコーナーへのお問い合わせや入会お申込みは
ASIS インターナショナル日本支部 事務局まで

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-2-17
日本保安人事株式会社内
TEL 03-3255-3468 FAX 03-3258-7630
E-Mail info@asis-japan.org
www.asis-japan.org